

仲間と協力し合い、意欲的・主体的に取り組む体育学習のあり方

大分県佐伯市立佐伯小学校

全校児童数	288名(男子149名 女子139名)		
全クラス数	11	教職員数	26名
体育専科教員訪問学校数			9校
訪問校	渡町台小、下堅田小、青山小、明治小、上野小、切畑小、木立小、蒲江翔南小、東雲小		
体育専科教員名		児玉 敬則	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆児童の生活について

○本校は佐伯市内の中心部に位置し、交通量がかなり多い。そのため、帰宅後は外遊びをする場所も公園に限られるが、遊んでいる子は少ない。また、社会体育(野球、サッカー等)に所属している児童は、全校児童288名中204名(複数在籍有)いる。

◆学校での様子

○児童は休み時間に外に出てボール遊びや鬼遊びをする児童が昨年より増えてきたが室内で読書をする児童もいる。

◆体力テストの結果から

○一昨年度、本校は全国・県・市の平均値を上回っている種目もあったが、多くの種目で平均値以下であった。また、基礎感覚や用具の操作能力が十分身につけていない児童がいることも分かり、佐伯市の課題である走力・持久力の向上と、授業実践による工夫改善に取り組んできた。これらに毎時間取り組むことで児童の体力向上と基礎感覚、操作能力を身につけて授業改善による効果的な指導を実践してきたが、コロナ禍のため体力を取り戻すことを第一として取り組んできた。

2 取組の計画

- ①体力向上を目指した走運動・ゲームの定着
- ②補助運動の充実
- ③体育授業の充実

Do：実践内容

1 毎時間の走運動・鬼遊びの取組

補助運動後に次のような走運動・鬼遊びを実施

- (1) ネコとネズミ(鬼遊び；3分間走)
 - ①2人ペア(走力の近い児童)での競走
3、4年生；体育館・運動場)
 - ②走力の高い児童にネコにした競走
(他の児童はネズミ、1、2年生；体育館・運動場)
- (2) 復活(生き残り)ゲーム(鬼遊び；3分間)
 - ①クラスまたは学年の約4分の1の児童をネコ、他をネズミとしたゲーム
(タッチされたら外に出て10秒経過後、復活)

2 補助運動の充実

基礎感覚や基本的な動きを身につけるために補助運動は準備運動後に行う。

- (1) 体育館内での補助運動

- ①カエル足打ち(壁逆立ち、壁倒立)
- ②柔軟運動(開脚前・横倒し、ブリッジ等)
- ③ボール操作(つく、投げ上げキャッチ、的当て・キャッチ、ドリブル等)

(2) 運動場での補助運動

- ①馬とび
- ②こうもり、スイング、つばめ等(鉄棒)

3 体育授業の充実

(1) 授業の流れの工夫

- ①「めあての確認」「準備体操」「補助運動」「走運動」「主運動」「整理体操」「振り返り」の定着
- ②「振り返り」の工夫
・自他の伸びや「協力」について考える。

●工夫したこと(&苦労した点)

子どもの持つ特性を考えた走運動・ゲームの実施

- (1) 追いかける・逃げる遊び(鬼遊び；2～3分間走)
- (2) 短時間で効果的な補助運動のあり方
 - ①変更するタイミングと内容
- (3) 「授業の充実」に向けて
 - ①子どもが楽しいと感じる体育学習をめざす。
 - ②授業では「教え合い」「励まし合い」「助け合い」を行い、みんなで「協力し合う」ことを意識させる。
 - ③「振り返り」では「協力」した姿についてみんなで賞賛しよう。⇒次時への意欲化

Check：取組の成果

- ①走運動・鬼遊びへの取組
 - 落ちていた走力は元に戻ってきた。
- ②補助運動の充実への取組
 - 基礎感覚(回転・腕支持・逆さ・倒立)は、徐々に身につけてきた。
- ③体育授業の充実への取組
 - 授業が楽しいと感じている児童が増えてきた。
 - 「振り返り」で他児童のよさや自身の成長を認める意見が増えてきた。

Action：今後の課題

- ・上達の見える化

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ①体力やいろいろな技能の向上が自覚でき、「継続した努力」の重要性が確認できた。
- ②仲間とともに「協力」の大切さが自覚できた。

1 鉄棒、マット、跳び箱遊びのできる動きと学年別児童数

学 年	こうもり	ふとん干し	つばめ	前回り下り	スイング	腕支持前回り
1 年	51(93%)	49(89%)	54(98%)	50(91%)	40(73%)	0(0%)
2 年	40(93%)	41(75%)	42(98%)	42(98%)	40(93%)	6(14%)

学 年	カエル・うさぎ跳び	跳び上がり・跳び下り(腕支持)	平均台渡り	箱跳び越し(連続)	でんぐり返し(台上前転)	壁逆立ち	壁倒立	学年児童数
1 年	49(89%)	50(91%)	50(91%)	54(98%)	34(62%)	51(93%)	7(13%)	55名
2 年	37(86%)	35(81%)	40(93%)	40(93%)	36(84%)	41(95%)	6(14%)	43名

※ () 内は学年児童数に対する割合

2 柔軟、マット運動・跳び箱運動のできる技と学年別児童数

学 年	開脚前屈	ブリッジ	前転	開脚前転	後転	開脚後転
3 年	37(71%)	49(94%)	46(88%)	48(92%)	40(77%)	45(87%)
4 年	19(37%)	44(85%)	41(79%)	43(83%)	34(65%)	37(71%)

学 年	側転	開脚跳び越し	台上前転	組み合わせ運動(マット・跳び箱)	壁逆立ち	壁倒立	学年児童数
3 年	22(42%)	48(92%)	0(0%)	37(71%)	50(96%)	9(17%)	52名
4 年	34(71%)	44(85%)	32(62%)	41(79%)	50(96%)	27(52%)	52名

※ () 内は学年児童数に対する割合